

令和8年度 学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立愛日小学校

■ 学校の共通目標

【令和8年5月22日】

授業作り	重点	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの実現に向け、学習活動や教材を工夫するとともに、授業のめあてを明確にし、学習の振り返りをしっかり行い理解を深めていく。 ・確かな学力向上のため、ICT 機器を効果的に活用して個別最適な学習を推進し、基礎・基本の定着を図る。
環境作り		<ul style="list-style-type: none"> ・「愛日スタンダード」を基にした学習指導・生活指導を行う。 ・ユニバーサルデザインを意識した教室掲示等、全校で統一した環境づくりを行う。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の面白さ、楽しさを味わいながら文字や文章の読み書きの確実な定着を図る。 ・相手の話をしっかり聞くとともに、自分の考えを話すことができるようにする。 ・数の表し方や計算の仕方を十分に理解し、正確に計算できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①一単位時間の中に、話す、聞く、読む、書く活動をバランスよく設定 ②考えを伝え合う活動の充実（ペアトーク） ③具体物、半具体物、図、言葉、数、式、表を用いて自分の考えを表現する活動の設定 ④基礎的な計算練習の時間の確保
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話をしっかり聞く。聞き手に伝わるかどうかを想像しながら構成を考えることができるようにする。 ・自分の思いや考えを明確にして、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができるようにする。 ・具体物や図などを用いて、数の表し方や計算の仕方を十分に理解し、正確に計算できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①言葉に着目して考える機会を増やし、読書の幅を広げるための、読み聞かせやブックトークの実施 ②自分の思いや考えを表現する場の意図的な設定及び、学級全体の話し合いやペアでの対話の充実 ③具体物、半具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考えを伝え合い学び合う場の設定 ④基礎的な計算練習やかけ算九九の定着を図る時間の確保
3 学 年	新宿区学力定着度調査より ・国語科「書くこと」領域のポイントが他の領域に比べて低いことから、書く意欲を高め、伝えたいことを分かりやすく	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」に取り組む機会を増やし、児童の意欲を高める題材を設定する。 ・書いたものを見直し、推敲する機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ①宿題の習慣化とノート指導での徹底、文字を丁寧に書く指導の充実 ②国語辞典、「言葉のたから箱」の活用、「言の葉帳」の作

	<p>書く力を高めていくことが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の漢字を活用する意識の向上と、新出漢字の確実な習得、語彙力の向上が必要。 ・算数科「数と計算」及び「測定」領域のポイントが低いことから、既習内容の定期的な反復練習が必要。 ・知識・技能を活用する問題への正答率が低いことから、問題解決の過程を説明するなど、数学的に表現する力を高めていくことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なジャンルの本に触れ、読書生活を向上させる。 ・四則計算やかけ算九九など、正しく計算するために必要な力を身に付ける問題に繰り返し取り組む機会を設ける。 ・問題解決の結果だけでなく、解決の過程を説明する大切さを意識させ、言葉・図・式を用いて表現する力を高めていく機会を設ける。 	<p>成と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ③相手や目的に応じた言葉の選択や、自分の思いや考えを表現する活動の充実（スピーチ、ペアやトリオでの話し合い活動、発表） ④かけ算の反復練習の徹底 ⑤ノート指導の充実とよい説明の紹介 ⑥日常生活での量感の意識付けと、他教科での意図的な活用
<p>4 学 年</p>	<p>新宿区学力定着度調査より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語の「書くこと」と言語、情報、言語文化に関するポイントが他の領域に比べやや低いことから、言語感覚を高めて書く力を高めていくことが必要。 ・既習の漢字を活用する意識の向上と、新出漢字の習得・定着が必要。 ・自分の考えと比較して相違点や類似点を捉えながら聞くことが必要。 ・算数の図形領域において、必要な言葉や基本的な考え方を習得することが必要。 ・算数の全領域において、学習内容を、きちんと定着するまで学習することが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語に対する感覚を高められるよう、学習はもちろん、日常的に漢字を使う場面や言葉に着目する場面を設定する。また、新出漢字の学習を計画的に行って習得につなげる。 ・自分の伝えたいことを明確にして分かりやすく書くこと、句読点等の表記を正確に書けるよう、定期的にそれらを意識して書く学習を設定する。 ・算数の九九や基礎的な四則計算の基礎を習得して、正確に計算できるようにする。そのために、それが必要となる新単元の導入時や毎時間の最初に九九や基礎的な四則計算の復習を行う。 ・図や数直線等を用いて学習した内容を説明する場面を多く作り、既習事項を活用する必要性のある場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①読書の幅を広げるための環境整備と時間の確保 ②詩や短い文章の視写・聴写の取組 ③新出漢字を使った例文作り ④デジタルドリルの活用 ⑤ペアやトリオ(3人組)での話し合い、朝や帰りの会でのスピーチの活用 ⑥基礎的な計算練習の取組 ⑦図・式・言葉を組み合わせて自分の考えを説明する機会の確保
<p>5 学 年</p>	<p>新宿区学力定着度調査より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」の向上のため、考えを相手に豊かに伝える語彙力の向上、言葉や文章で伝えようとする意識の高まりが必要。 ・「話す、表現すること」の向上のため話し手を見たり、 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを、既習の表現技法や豊富な語彙、既習の漢字を活用して相手に伝わるように表現できるようにする。 ・話し手に意識を向け、頷いたり相槌を打ったりしながら、自分の考えとの違いや似ているところを明確にできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①読書の幅を広げるための環境整備、時間の確保 ②国語辞典を活用した熟語の意味調べ ③新出漢字を使った例文作り ④教科横断を意識した、発表活動の充実 ⑤デジタルドリルを活用した

	<p>反応したりしながら聞き、自分の考えと比較して相違点や類似点を捉え、自分の考えに生かす姿勢が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・速く正確に計算する力など、既習内容の定期的な反復練習が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分からないところを自覚し、改善するために、自主的に反復練習できるようにする。 ・数や図形、グラフなどを活用して、学習に生かそうとすることができるようにする。 	<p>基礎的な計算練習の取組</p> <p>⑥図（グラフ）・式・言葉を組み合わせて表現する学習活動の充実</p>
6 学 年	<p>新宿区学力定着度調査より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを書いたり、文章問題に正しく回答したりするために、語彙を豊かにし、話したり文章を書いたりする中で使うことのできる力が必要。 ・自分の文章を読み返すことが必要。 ・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決める力が必要。 ・算数の計算領域において、早く、正確に計算する技能の習得が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なジャンルの本に触れ、表現方法や語彙力の向上を目指す。 ・同じ言葉の繰り返しなど文章の矛盾点を見つけ修正するために、読み返すことを習慣化する。 ・毎日の気付きを自分の言葉で書き溜めておくことで、表現力を向上させたり、柔軟な視点を養ったりする。 ・文章問題の読み方を定着させる。 ・基礎的な四則計算を習得のために、新単元の導入時や毎時間の最初に九九や基礎的な四則計算の復習を行う。 ・図や数直線等を用いて学習した内容を説明する場面を多く作り、既習事項を活用する必要性のある場面を設定する。 	<p>①「言葉ノート」を用いた、言葉への気付きの意識化</p> <p>②読書の幅を広げるための環境整備、時間の確保</p> <p>③国語辞典を活用した熟語の意味調べ</p> <p>④「週末作文」を活用した表現活動の充実</p> <p>⑤ペアやトリオ（3人組）での話し合い、朝や帰りの会でのスピーチの活用</p> <p>⑥デジタルドリルを活用した基礎的な計算練習の取り組み</p> <p>⑦図・式・言葉を組み合わせて自分の考えを説明する機会、学習活動の充実</p>
特 別 支 援		<ul style="list-style-type: none"> ・休みの日にあったことや行事のことなどを文に書く機会を増やし、考えたり書いたりすることに慣れる。 ・読書タイム、読み聞かせなどを通し、本に触れる機会を増やす。 ・生活单元、総合などの学習で、知りたいことを調べたり、相手に自分の思いを伝えたりするための方法として、タブレット端末の活用を取り入れる。 ・日常生活の様々な場面を想定し、実際の生活場面で知識や計算を活用できるように場面を設定する。計算は忘れないよう、継続的に学習する。 ・個に応じた課題、教材を作成する。 	<p>①休日にしたことや行事など、身近な題材から、考える・書く機会を設定</p> <p>②図書の時間、読書タイムの活性化</p> <p>③タブレット端末の利活用</p> <p>④実生活につながる体験の設定や具体物の操作を取り入れた学習</p> <p>⑤小集団学習と個別学習の充実</p>